

# みっつの“わ”

R.6. 1月号

No.9

河内長野市立長野小学校  
支援人権部発行

新年がスタートして早3週間が過ぎました。「今年は、〇〇をがんばろう」「〇〇出来るように、毎日△△をやろう」などと目標を立てたことと思います。目標があると、日々のやるべきことが明確になり、充実した毎日を送ることができます。もし、まだ目標を立てていないのであれば、小さなことからでも達成できそうな目標を立てることをおすすめします！



## 生きていく上で大切な力を育てる口ぐせ

自信や優しさ、挑戦する力…など、生きていく上で大切な力を、親や周囲の大人が日頃かける言葉によって育てていくことができます。何に気をつけて、どのように子どもの可能性を伸ばせばいいか、5つの力を育てる口ぐせを紹介します。

### ①自信を育てる口ぐせ → 自己信頼

自信がないと、物事に対して積極的に取り組めず、可能性をせばめてしまうことにもなります。自信をもつということは、言い換えると「自分を信頼できる」ということです。それには、自分が自分の最大の味方になれるような言葉、「あなたはかけがえのない存在だ」「あなたは必要とされている存在だ」というメッセージを伝えることが大切です。

「あなたが生まれてきてくれて幸せだね。」  
「うちの子になってくれて、ありがとう。」  
「あなたのおかげで、いつも助かってるよ。」



あなたが、うちに生まれてきてくれてママは幸せだね。

口ぐせを

### ②優しさ・思いやりを育てる口ぐせ → 共感する力

優しさや思いやりをもつということは、言い換えると「共感する力」をもつということであり、他の人の立場になって考えることができるということです。こうした力を育てるには、子どもが、共感に基づく行動ができたときに、その行動を受け止め、それを言葉にするといいでしょう。

「気づいてくれてありがとう。」  
「弟が困っているのに気づいたんだね。お母さんも気づかなかったよ。弟も喜んでいるね。」

「お母さんが忙しいの、わかって手伝ってくれたんだね。とっても助かるわ。」



口ぐせを

お母さんが忙しいのを分かって、手伝ってくれたのね。助かるわ。

### ③挑戦する力を育てる口ぐせ ➡ 克服する力

新しいことや難しいことに挑戦するときは、もしかしたら失敗するかもしれない、うまくいかないかもしれないという「不安」に打ち勝つ必要があります。臆病になりそうな自分を克服して、一步前に踏み出す力を働かせられるような言葉を子どもにかけましょう。「あなたなら、きっとできるよ」という信頼が、子どもに挑戦する勇気を与えます。



まっしぐらあなたなら  
できるわよね。

口ぐせを  
こんな

「できるようになったら、自信がつくよね。」

「〇〇ちゃんならできるんじゃないかなって、お母さんは思うよ。」

### ④立ち直る力を育てる口ぐせ ➡ 失敗から学ぶ力

子どもの成長において、体験こそが最大の教師です。失敗も貴重な体験であり、「失敗した」「できなかった」という結果を通して何を学べるかが大切なのです。失敗から学びたい、次はこうすればうまくできるかもしれない、そんなふうに思えれば、立ち直る力を育むことができます。子どもが失敗したときに非難するのではなく、失敗したことを肯定的に捉えられるような言葉をかけましょう。

口ぐせを  
こんな

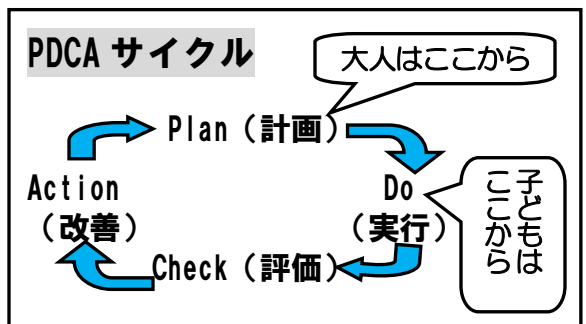
「発見があったね。」

「あなたなりの工夫があったの、よくわかったよ。」

「さっきよりできるようになってるよ。どこを変えてみたのかな。」

### ⑤自分でやる力を育てる口ぐせ ➡ 自立心・自律心

「自分でやる力」を伸ばすには、他者に依存しない「自立心」と、セルフコントロールできる「自律心」が育つことが大切です。そのために、大人が先回りしてアドバイスせず見守ることです。大人は行動する前に失敗しないようにPDCAサイクルのPから、まず計画を立てますが子どもは、先に行動する傾向にあります。そのため、失敗することもあります。自分で決めて行動したことなら、「なぜ失敗したのか」自分なりに検証して工夫し、次に活かそうとするはずです。



口ぐせを  
こんな

「自分でやったんだね。」

「よく工夫してやったね。」

「自分でやってみてどうだった？」

紹介した5つの力を育てる口ぐせですが、ただ言葉かけがスキルだけになってしまうのは危険です。それは、大人が子どもを操作することになるからです。そうならないための大前提は、子どもに対して尊敬し、信頼する心をもつことです。スキルとマインドの両方を備えてこそ、有効なのです。